

大阪湾生き物一斉調査について

『大阪湾生き物一斉調査』とは、大学・市民団体・国および地方自治体等で構成する「大阪湾環境再生連絡会」が大阪湾の沿岸で活動する団体の協力を得て、皆さんと一緒に各地の生き物を一斉に調査する取り組みです。

この調査の結果は大阪湾の各地の水環境を把握する基礎資料にします。

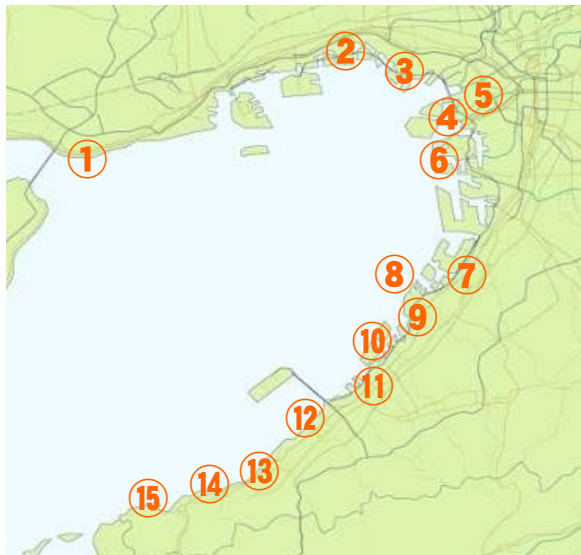
この調査は、平成19年に矢倉海岸（大阪市西淀川区）において試行調査を実施し、平成20年度から本格的に調査を実施しています。

平成21年度 第2回大阪湾生き物一斉調査について

1 調査概要

平成21年は5月9日に15地域22地点において666名が参加して、第2回大阪湾生き物一斉調査を実施しました（一部の地域では、5～6月の別の日に実施）。調査地域及び担当団体等は図1に示すとおりです。

なお、地域の番号は平成20年度と整合させずに、通し番号としています。



【兵庫県内】

調査地点	調査地点の環境	担当団体	参加人数	
1	アジュール舞子	砂浜、磯	須磨海浜水族園ボランティア	32
2	香櫛園浜（御前浜）	砂浜、干潟	西宮自然保護協会 [5/10]	75
3	甲子園浜海浜公園	砂浜、磯・岩礁	NPO法人 海浜の自然環境を守る会 [5/9,5/23,6/6]	59
		干潟	NPO法人 シニア自然大学（子ども教育部門）	90

【大阪府内】

調査地点	調査地点の環境	担当団体	参加人数	
4	矢倉海岸	干潟	西淀自然文化協会	102
5	海老江海岸	干潟	(社)大阪自然環境保全協会 淀川自然観察会	46
6	大阪南港野鳥園	干潟	大阪南港野鳥園 [6/13]	22
7	高師浜	砂浜、干潟	浜寺公園自然の会	17
8	大津川河口	干潟	きしわた自然資料館 [6/6]	20
9	阪南二区埋立地	干潟	きしわた自然友の会 [5/23]	45
10	近木川河口	干潟	NPO法人 シニア自然大学 森と海の自然科	20
		干潟、護岸		
11	二色の浜	砂浜、護岸	貝塚市立自然遊学館 [5/24]	62
12	櫻井川河口 岡田浦海岸	砂浜、干潟	男里川・河口干潟を守る会	17
13	樽井海岸 男里川河口干潟	干潟		
14	せんなん里海公園	磯、岩礁	里海くらぶ連絡協議会	59
15	東川（落合川）河口	干潟	きしわた自然資料館 [6/6]	注

注)参加人数は調査地点8と同じである。

合計：666名

図1 調査地域及び参加状況等

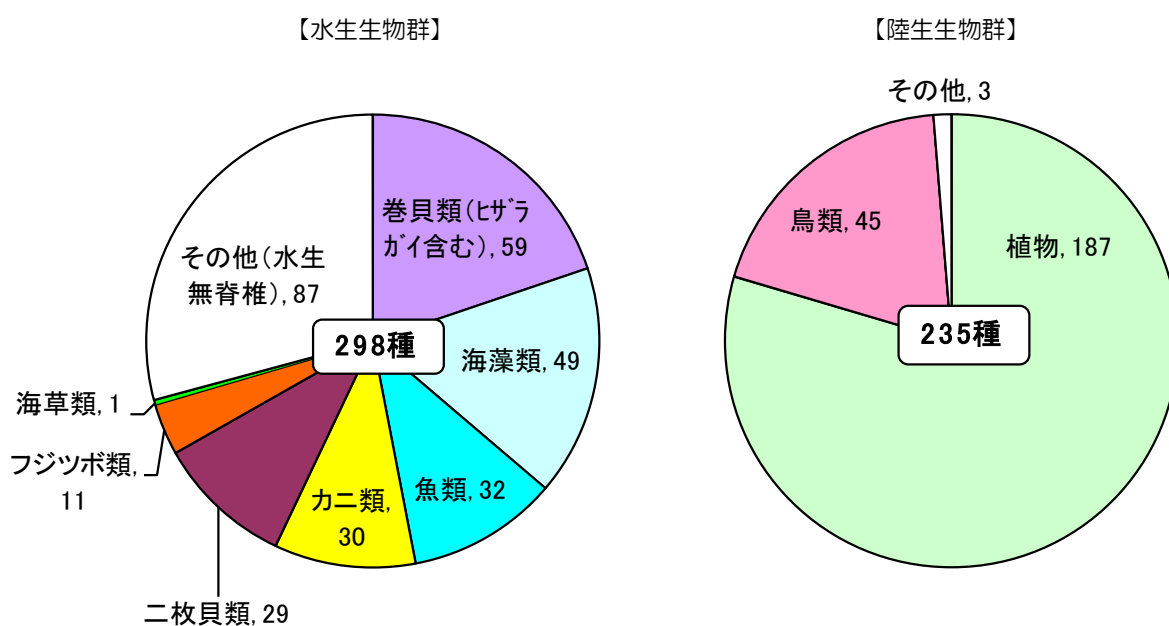
2 結果の概要

第 2 回大阪湾生き物一斉調査の結果について、参加団体から提出していただいた「調査シート」の出現種を整理しました。

2-1 出現種一覧

種名まで同定された種類は 533 種（うち、調査シートのリスト掲載種は42 種）でした。水生生物群は海藻類及び海草類が50種、動物は巻貝類が59種、魚類が32種、カニ類が30種等でした。陸生生物群は鳥類が45種、植物については矢倉海岸で別途調査が行われ、158 もの種が記録されました。

また、出現種の一覧は表 1 のとおりでした。



注) 1. 数字は種数を示す。

2. 陸生生物群の「その他」は爬虫類、両生無脊椎類、陸生無脊椎動物を含み、カメ類等若干の水生生物を含む。

図 2 平成 21 年度出現種の分類群別種数

表 1 (1) 出現種一覧 (平成 21 年度)

分類	No.	種名	分類	No.	種名	分類	No.	種名	
海藻類 (緑藻類)	1	アオサ科	貝類 (巻き貝)	84	エビスガイ	多毛類	169	コケゴカイ	
	2	アオリ属		85	オオヘビガイ		170	サシバコカイ科	
	3	アナアオサ		86	カキウラクチキレモドキ		171	サミドリサシバ	
	4	ウスバアオリ		87	カラマツガイ		172	シロマダラシリス	
	5	シオグサ属		88	カワグチツボ		173	スナイソゴカイ	
	6	ジュズモ属		89	カワザンショウガイ		174	タマシキゴカイ	
	7	スジアオリ		90	キクノハナガイ		-	タマシキゴカイの卵囊	
	8	ヒラアオリ		91	クサイロアオガイ		175	チロリ科	
	9	ボウアオリ		92	クボガイ		176	ツルヒゲゴカイ	
	10	ボタンアオサ		93	クモリアオガイ		177	ナデシコカンザシ	
	(褐藻類)	11		アカモク	94		クロシタナシウミウシ	178	フサウスウロコムシ
		12		アマジグサ	95		クロツケガイ	179	フサゴカイ目
		13		ウミウチワ	96		クロヘリアメフラシ	180	ミズヒキゴカイ
		14		ウミトラノオ	97		ケハダヒザラガイ	181	ミロクウロコムシ
		15		カジメ	98		コウダカアオガイ	182	ムギワラムシ
		16		シダモク	99		コガモガイ	183	ヤチウロコムシ
		17		タマハハキモク	100		コシダカエビス	184	ヤッコカンザシ
		18		ヒジキ	101		コシダカガンガラ	185	多毛類
		19		フクロノリ	102		コモレビコガモガイ	186	カマキリヨコエビ属
		20		ヘラヤハズ	103		シマハマツボ	187	シミズメリタヨコエビ
		21		ワカメ	104		シマメノウフネガイ	188	ドロクダムシ類
	(紅藻類)	22		アマノリ属	105		スガイ	189	トンガリドロクダムシ
		23		イソダンツウ	106		スズメハマツボ	190	ニッポンモバヨコエビ
		24		イソハンモン	107		タマキビガイ	191	ニホンドロソコエビ
		25		イトグサ属	108		チグサガイ	192	ハマトビムシ類
		26		イワノカワ科	109		ツメタガイ	193	ヒゲツノメリタヨコエビ
		27		ウスカワカニノテ	110		ノミノモドキ	194	ヒゲナガヨコエビ科
		28		エンジマダラ?	111		ハナツトガイ科	195	ヒメハマトビムシ
		29		オオバツノマタ	112		ヒカリウミウシ	196	フサゲモクス
		30		オキツノリ	113		ヒザラガイ	197	フサゲモクスヨコエビ
		31		オゴノリ	114		ヒナユキスズメ	198	ホソヨコエビ
		32		オゴノリ属	115		ヒメケハダヒザラガイ	199	マルエラワレカラ
		33		オバクサ	116		ヒメコザラガイ	200	メリタヨコエビ属
		34		カイノリ	117		フトヘナタリ	201	モクスヨコエビ属
		35		カバノリ	118		フレリトゲアメフラシ	202	モズミヨコエビ
		36		カヤモノリ	119		ホソウミニナ	203	ヨコエビ類
		37		キヨウノヒモ	120		マツバガイ	204	ワレカラ類
		38		クロモ	121		マルウスラタマキビガイ	205	アカフジツボ
		39		ユスジフシツナギ	122		ミズタマウミウシ	206	アメリカフジツボ
		40		コノハノリ科	123		ムギガイ	207	イワフジツボ
		41		コメノリ	124		ヤスリヒザラガイ	208	カメノテ
		42		サビモドキ	125		ヨコイトカケギリ	209	クロフジツボ
		43		シラモ	126		ヨフバイ	210	ケハダカイメンフジツボ
		44		スジムカデ	127		ヨメガカサガイ	211	サンカクフジツボ
		45		ツノマタ	128		レイシガイ	212	シロスジフジツボ
		46		ツノマタ属	129		アカガイ	213	タテジマフジツボ
		47		ツノムカデ	130		アケボノキスタ	214	ドロフジツボ
		48		ナミノハナ?	131		アサリ	215	フジツボ類
		49		ハイテングサ	132		アズマニシキ	216	ヨーロッパフジツボ
		50		ヒメテングサ	133		イガイダマシ	217	ケアシホンヤドカリ
		51		フクロノリ	134		ウスカラシオツガイ	218	コブヨコバサミ
		52		フシツナギ	135		ウネナシトマヤガイ	219	ヒラトゲガニ
		53		フダラク	136		オオノガイ	220	ホンヤドカリ
		54		ベニスナゴ	137		オニアサリ	221	ユビナガホンヤドカリ
		55		マクサ	138		カガミガイ	222	ヨモギホンヤドカリ
		56		マツノリ	139		カリガネエガイ	223	アカテガニ
	57	ミゾオゴノリ		140	キヌマタイガイ		224	アシハラガニ	
	58	ムカデノリ		141	クチバガイ		225	イシガニ	
	59	ユナ		142	クログチガイ		226	イソガニ	
	60	紅藻類		143	ケガキ		227	オサガニ	
	植物 [リスト種のみ]	61		無節サンゴモ類	144		コウロエンカワヒバリガイ	228	カクベンケイガニ
		62		オカヒジキ	145		サルボウガイ	229	クロベンケイガニ
		63		コウボウムギ	146		セミアサリ	230	ヒライソガニ属の一種
		64		ハマウド	147		ソトオリガイ	231	ケブカアワツツガニ
		65		ハマゴウ	148		チリハギガイ	232	ケフサイソガニ
		66		ハマダイコン	149		ナミマガシワ	233	コメツキガニ
		67		ハマボウフウ	150		ヒバリガイ	234	シオマネキ
68		アマモ	151	ヒメシラトリガイ	235	シワオウギガニ			
海藻類 貝類 (巻き貝)	69	アオガイ	152	ホトギスガイ	236	スエヒロガニ			
	70	アカニシ	153	マガキ	237	スナガニ			
	71	アメフラシ	154	マツカゼガイ	238	タイワンヒライソモドキ			
	-	アメフラシ(卵塊)	155	ミドリイガイ	239	タカノケフサイソガニ			
	72	アラムシロガイ	156	ムラサキイガイ	240	チチウカイミドリガニ			
	73	アラレタマキビガイ	157	ヤマトシジミ	241	ハクセンシオマネキ			
	74	イシダタミガイ	158	Hediste属	242	ハマガニ			
	75	イシマキガイ	159	Typosyllis sp.	243	ヒメアカイソガニ			
	76	イズミドリガイ	160	アシナガコカイ	244	ヒメベンケイガニ			
	77	イナザワハベガイ	161	イソゴカイ	245	ヒメヤマトオサガニ			
	78	イボニシ	162	イトゴカイ科	246	ヒライソガニ			
	79	ウスヒザラガイ	163	イワムシ	247	ヘリトリマンジュウガニ			
	80	ウノアシガイ	164	ウスマキゴカイ科	248	マメコブシガニ			
	81	ウミナメクジ	165	エソカサネカンザシゴカイ	249	モクスガニ			
	82	ウミニナ	166	カニヤドリカンザシゴカイ	250	ヤマトオサガニ			
83	ウミフクロウ	167	カンザシゴカイ科	251	ユビアカベンケイガニ				
-	ウミフクロウ(卵塊)	168	ゴカイ科	252	ヨツハマガニ				
植物 [リスト種のみ]	84	エビスガイ	多毛類	158	Hediste属	186	カマキリヨコエビ属		
	85	オオヘビガイ		159	Typosyllis sp.	187	シミズメリタヨコエビ		
	86	カキウラクチキレモドキ		160	アシナガコカイ	188	ドロクダムシ類		
	87	カラマツガイ		161	イソゴカイ	189	トンガリドロクダムシ		
	88	カワグチツボ		162	イトゴカイ科	190	ニッポンモバヨコエビ		
	89	カワザンショウガイ		163	イワムシ	191	ニホンドロソコエビ		
	90	キクノハナガイ		164	ウスマキゴカイ科	192	ハマトビムシ類		
	91	クサイロアオガイ		165	エソカサネカンザシゴカイ	193	ヒゲツノメリタヨコエビ		
	92	クボガイ		166	カニヤドリカンザシゴカイ	194	ヒゲナガヨコエビ科		
	93	クモリアオガイ		167	カンザシゴカイ科	195	ヒメハマトビムシ		
	94	クロシタナシウミウシ		168	ゴカイ科	196	フサゲモクス		
	95	クロツケガイ				197	フサゲモクスヨコエビ		
	96	クロヘリアメフラシ				198	ホソヨコエビ		
	97	ケハダヒザラガイ				199	マルエラワレカラ		
	98	コウダカアオガイ				200	メリタヨコエビ属		
99	コガモガイ			201	モクスヨコエビ属				
100	コシダカエビス			202	モズミヨコエビ				
101	コシダカガンガラ			203	ヨコエビ類				
102	コモレビコガモガイ			204	ワレカラ類				
103	シマハマツボ			205	アカフジツボ				
104	シマメノウフネガイ			206	アメリカフジツボ				
105	スガイ			207	イワフジツボ				
106	スズメハマツボ			208	カメノテ				
107	タマキビガイ			209	クロフジツボ				
108	チグサガイ			210	ケハダカイメンフジツボ				
109	ツメタガイ			211	サンカクフジツボ				
110	ノミノモドキ			212	シロスジフジツボ				
111	ハナツトガイ科			213	タテジマフジツボ				
112	ヒカリウミウシ			214	ドロフジツボ				
113	ヒザラガイ			215	フジツボ類				
114	ヒナユキスズメ			216	ヨーロッパフジツボ				
115	ヒメケハダヒザラガイ			217	ケアシホンヤドカリ				
116	ヒメコザラガイ			218	コブヨコバサミ				
117	フトヘナタリ			219	ヒラトゲガニ				
118	フレリトゲアメフラシ			220	ホンヤドカリ				
119	ホソウミニナ			221	ユビナガホンヤドカリ				
120	マツバガイ			222	ヨモギホンヤドカリ				
121	マルウスラタマキビガイ			223	アカテガニ				
122	ミズタマウミウシ			224	アシハラガニ				
123	ムギガイ			225	イシガニ				
124	ヤスリヒザラガイ			226	イソガニ				
125	ヨコイトカケギリ			227	オサガニ				
126	ヨフバイ			228	カクベンケイガニ				
127	ヨメガカサガイ			229	クロベンケイガニ				
128	レイシガイ			230	ヒライソガニ属の一種				
129	アカガイ			231	ケブカアワツツガニ				
130	アケボノキスタ			232	ケフサイソガニ				
131	アサリ			233	コメツキガニ				
132	アズマニシキ			234	シオマネキ				
133	イガイダマシ			235	シワオウギガニ				
134	ウスカラシオツガイ			236	スエヒロガニ				
135	ウネナシトマヤガイ			237	スナガニ				
136	オオノガイ			238	タイワンヒライソモドキ				
137	オニアサリ			239	タカノケフサイソガニ				
138	カガミガイ			240	チチウカイミドリガニ				
139	カリガネエガイ			241	ハクセンシオマネキ				
140	キヌマタイガイ			242	ハマガニ				
141	クチバガイ			243	ヒメアカイソガニ				
142	クログチガイ			244	ヒメベンケイガニ				
143	ケガキ			245	ヒメヤマトオサガニ				
144	コウロエンカワヒバリガイ			246	ヒライソガニ				
145	サルボウガイ			247	ヘリトリマンジュウガニ				
146	セミアサリ			248	マメコブシガニ				
147	ソトオリガイ			249	モクスガニ				
148	チリハギガイ			250	ヤマトオサガニ				
149	ナミマガシワ			251	ユビアカベンケイガニ				
150	ヒバリガイ			252	ヨツハマガニ				

注: 1) 406種のうち、種まで同定されたもの352種、種まで同定されていないもの54種(水色セル)。
 2) 種名順序は各分類群中で五十音順。
 3) 本表の植物はリスト種のみとし、植物は別途表に示した。
 4) 卵囊(塊)については、本体が出現する場合は種類数より抜いた(黄色セル)。

表 1 (2) 出現種一覧 (平成 21 年度)

分類	No.	種名	分類	No.	種名
昆虫類	253	トビムシ類	その他	338	クロイソカイメン
	254	ハサミムシ目	カイメン類	339	ダイダイイソカイメン
魚類	255	アイナメ		340	ナミイソカイメン
	256	アカエイ	クラゲ類	341	アカクラゲ
	257	アカオビシマハゼ		342	カミクラゲ
	258	アコハゼ		343	ミズクラゲ
	259	アサヒアナハゼ	イソギン	344	タテジマイソギンチャク
	260	アナハゼ	チャク類	345	ヨロイイソギンチャク属
	261	アベハゼ	貧毛類	346	イソミズ
	262	イサキ	等脚類	347	イソコツブムシ
	263	イシガレイ		348	イソコツブムシ属
	264	イダテンギンボ		349	イソヘラムシ
	265	ウナギ		350	シリケンウミセミ
	266	ウミタナゴ類		351	トンダガワイソコツブムシ
	267	カジカ科		352	ニホンハマワラジムシ
	268	キチヌ		353	フナムシ
	269	ギンボ		354	ヨツバコツブムシ
	270	クサフグ	エビ類	355	アシナガスジエビ
	271	クロダイ		356	イソテッポウエビ
	272	スジハゼ		357	イソモエビ
	273	スズキ		358	イバラモエビ属
	274	セスジボラ		359	コンマガリモエビ
	275	ダイナンギンボ		360	スジエビモドキ
	276	チチブ		361	スジエビ類
	277	ドロメ		362	セジロムラサキエビ
	278	ナベカ		363	テッポウエビ
	279	ニクハゼ		364	テッポウエビ類
	280	ネズミゴチ		365	ユビナガスジエビ
	281	ハタタテヌメリ		366	ヨシエビ
	282	ヒメハゼ	アナジャコ類	367	ハサミジャコエビ
	283	ヒラメ	ヒトデ類	368	イトマキヒトデ
	284	ボラ		369	キヒトデ
	285	ボラ科		370	トゲイトマキヒトデ
	286	マコガレイ		371	トゲモミジガイ
	287	マハゼ		372	ヌノメイトマキヒトデ
	288	ミズハゼ		373	モミジガイ
	289	メジナ	ウニ類	374	ハスノハカシハン
爬虫類	290	アオダイショウ		375	フアンウニ
	291	カナヘビ		376	ムラサキウニ
	292	ミシシッピアカミミガメ	ナマコ類	377	イカリナマコ科
鳥類	293	アオアシシギ		378	イシコ
	294	アオサギ		379	ヒモイカリナマコ
	295	アオジ		380	マナマコ
	296	イソシギ	ホヤ類	381	アスキア科
	297	イソヒヨドリ		382	イタボヤ属
	298	ウグイス		383	カタウレイボヤ
	299	オオソリハシシギ		384	カラスボヤ
	300	オオヨシキリ		385	シロウスボヤ
	301	カルガモ		386	シロボヤ
	302	カワウ		387	シロボヤモドキ
	303	カワラヒワ		388	スジキレボヤ
	304	キアシシギ		389	マンジュウボヤ
	305	キジバト		390	ミスジウスボヤ属
	306	キンクロハジロ		391	群体ボヤ類
	307	ケリ	その他	392	ナガトゲクモヒトデ
	308	コアシサシ		393	サラコケムシ科
	309	ゴイサギ		394	チゴケムシ
	310	コサギ		395	ホソフサコケムシ
	311	コシアカツバメ		396	モンゴチコケムシ科
	312	コチドリ		397	ウミサカツキガヤ科
	313	ササゴイ		398	ウミシハ科
	314	シロチドリ		399	針紐虫目
	315	スズメ		400	ヒモムシ類
	316	セグロセキレイ		401	イイジマヒラムシ
	317	セッカ		402	ウスヒラムシ
	318	ソリハシシギ		403	オオソノヒラムシ
	319	ダイサギ		404	ミノヒラムシ
	320	チュウシャクシギ		405	ウンモンフクロムシ
	321	ツバメ		406	フクロムシ類
	322	トウネン	種類数	406	
	323	ドバト			
	324	トビ			
	325	ハクセキレイ			
	326	ハシブトガラス			
	327	ハシボソガラス			
	328	ハマシギ			
	329	バン			
	330	ヒバリ			
	331	ヒヨドリ			
	332	ホシハジロ			
	333	マガモ			
	334	ミサゴ			
	335	ムクドリ			
	336	メジロ			
	337	メダイチドリ			

注: 1) 406種のうち、種まで同定されたもの352種、
種まで同定されていないもの54種(水色セル)。
2) 種名順序は各分類群中で五十音順。
3) 本表の植物はリスト種のみとし、植物は別途表に示した。
4) 卵囊(塊)については、本体が出現する場合は
種類数より抜いた(黄色セル)。

3. リスト掲載種の出現状況

3-1. 平成21年度結果

調査シートのリストに掲載している種（以下、「リスト掲載種」という。）の調査地域別の出現状況は表2に示すとおりでした。

表2 リスト掲載種の調査地域別出現状況（平成21年度）

分類群		種名	地点No. ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	出現頻度(全14地点)	
			アジュール舞子	香織園浜	甲子園浜(4地点)	矢倉干潟	海老江干潟	大阪南港野鳥園(2地点)	高師浜	大津川河口	阪南二区造成干潟	近木川河口・二色浜(3地点)	榎井川河口・岡田浦海岸	男里川河口	せんなん里海公園(3地点)	東川(落合川)河口			
海藻類	緑藻類	アナアオサ	●	●	●	●		●	●		●	●				●	●	10	
	紅藻類	スジアオノリ		●		●						●	●					5	
植物		オカヒジキ	●		●						●	●	●	●				6	
		コウボウムギ	●		●	●						●	●		●			6	
		ハマウド				●											●	2	
		ハマゴウ	●	●	●	●						●	●	●	●	●			8
		ハマダイコン			●	●		●					●	●	●	●			6
		ハマボウフウ	●	●	●					●	●	●	●	●	●	●			8
貝類	(巻き貝)	アラレタマキビガイ	●	●	●				●	●		●	●			●	●	9	
		イシマキガイ		●		●	●								●			5	
		イボニシ	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●		12
		タマキビガイ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●		13
		フレリトゲアメフラシ								●									1
	(二枚貝)	アサリ	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●		13
		ウスカラシオツガイ		●	●	●				●				●	●				4
		ウネナシトマヤガイ		●	●	●				●				●	●				6
		クチバガイ		●	●	●						●	●	●	●	●	●		8
		ケガキ	●									●	●		●	●	●		6
		コウロエンカワヒバリガイ		●	●	●	●			●	●			●	●				8
		マガキ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ムラサキイガイ	●	●	●					●			●	●	●				8		
フジツボ類	アカフジツボ	●																1	
	アメリカフジツボ		●	●	●				●			●						5	
	クロフジツボ	●											●			●		3	
	シロスジフジツボ									●		●	●	●		●		5	
	タテジマフジツボ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			12
	ドロフジツボ				●													1	
ヤドカリ類	ヨーロッパフジツボ		●	●	●	●			●			●	●					6	
	ホンヤドカリ	●	●	●												●	●	5	
カニ類	ユビナガホンヤドカリ		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12	
	アカテガニ				●		●											2	
	アシハラガニ				●	●				●				●				4	
	イソガニ	●	●	●	●		●					●			●			7	
	オウギガニ																	0	
	クロベンケイガニ			●	●	●									●			4	
	ケフサイソガニ		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●		11
	スナガニ		●	●							●	●	●	●				4	
	タカノケフサイソガニ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					11
	チチュウカイミドリガニ		●	●	●				●		●	●							6
	ハクセンシオマネキ		●	●	●					●			●	●	●	●	●		7
	ヒライソガニ	●	●	●					●			●	●	●	●	●	●		9
ヤマトオサガニ		●	●					●				●	●			●	6		
その他	端脚類	ヨコエビ類	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	13	
	その他	多毛類	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	14	
種類数(●の数)			18	27	28	27	9	10	21	16	15	24	24	25	20	19	42		

注: 1) ●:種まで同定されたもの □:種まで同定されていないもの(種数に含めない)

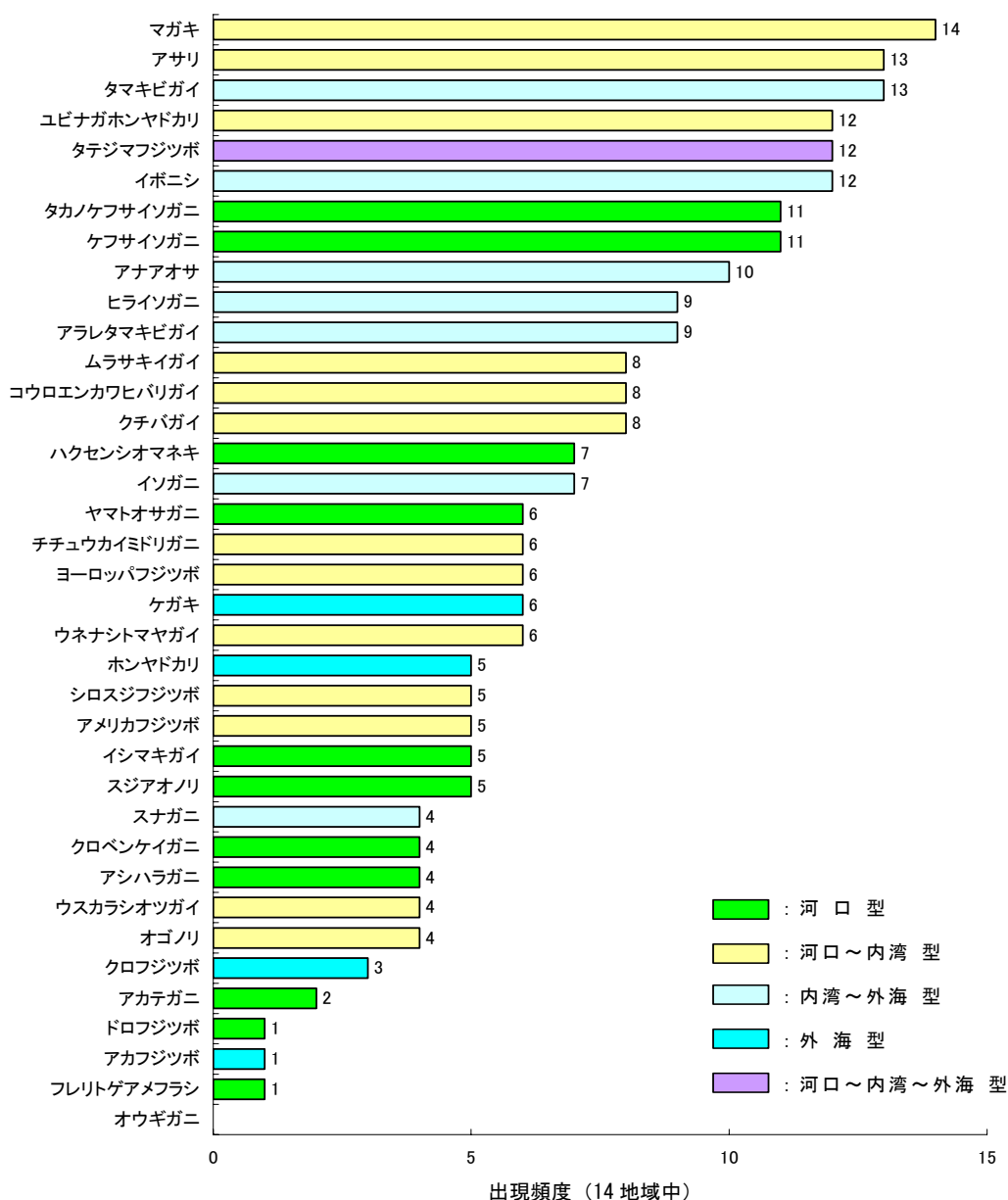
2) 種名は各分類群中で五十音順。

リスト掲載種の出現頻度を河口、内湾、外海等の生態型別に図3に示しました。

全体的に内湾型もしくは内湾～外海型の種の出現頻度が高く、マガキは14地域全てで、アサリとタマキビガイは14地域中13地域で確認されました。

河口型ではケフサイソガニ、タカノケフサイソガニが11地域で確認され、外海型のケガキは6地域、ホンヤドカリは5地域で確認されました。

なお、リストに掲載されており、今回確認されなかったのはオウギガニ1種でした。



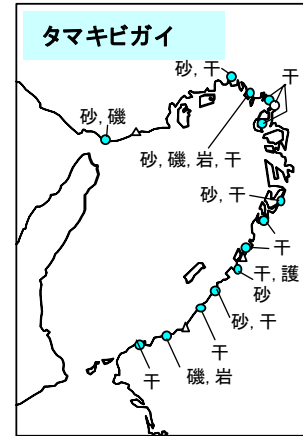
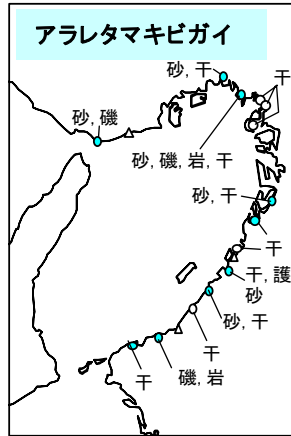
注)各種の生態型については、本調査の「解説ブック」と第24回 淀川環境委員会 4.汽水域環境部会 汽水域生物環境評価 WG報告の「分析対象種と類型」及び各種図鑑等に記載されている生態を参考に分類した。

図3 リスト掲載種の生態型と出現頻度 (平成21年度)

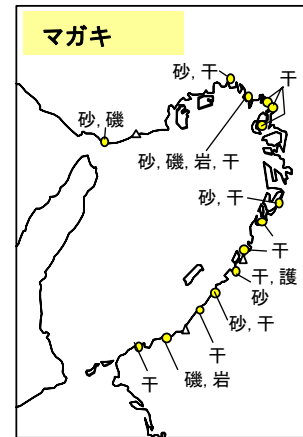
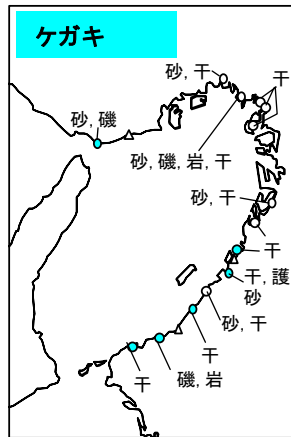
リスト掲載種のうち代表的な種の分布状況を以下に示しました。

【巻貝類、ヤドカリ類】

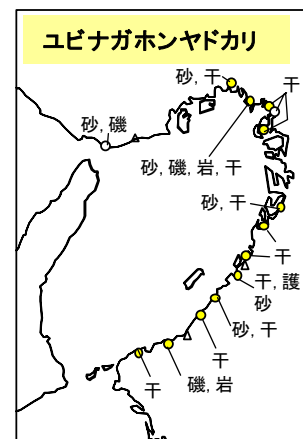
- タマキビガイ、アラレタマキビガイは内湾～外海型ですが、アラレタマキビガイはより高潮帯の波しぶきの当たる所を好み、平穏な湾奥を除く広域で出現していました。タマキビガイは潮間帯に普通にみられ、湾内のほぼ全域で出現していました。



- 外海型のケガキは湾中間域より湾奥では出現せず、これに対し河口～内湾型のマガキはほぼ全域で出現していました。



- 外海型のホンヤドカリは大阪府側の湾奥～湾中間域では出現していませんでした。これに対し、河口～内湾型のユビナガホンヤドカリは一部ホンヤドカリと重複し、ほぼ対照的に出現していました。



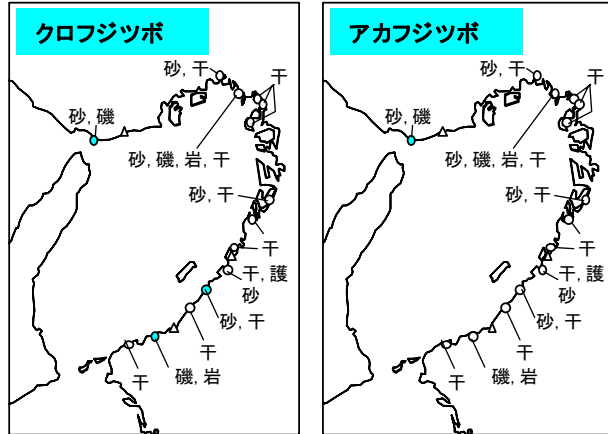
・砂：砂浜
 ・磯：磯
 ・干：干潟
 ・岩：岩礁
 ・護：護岸

■：河口～内湾型
 ■：内湾～外海型
 ■：外海型

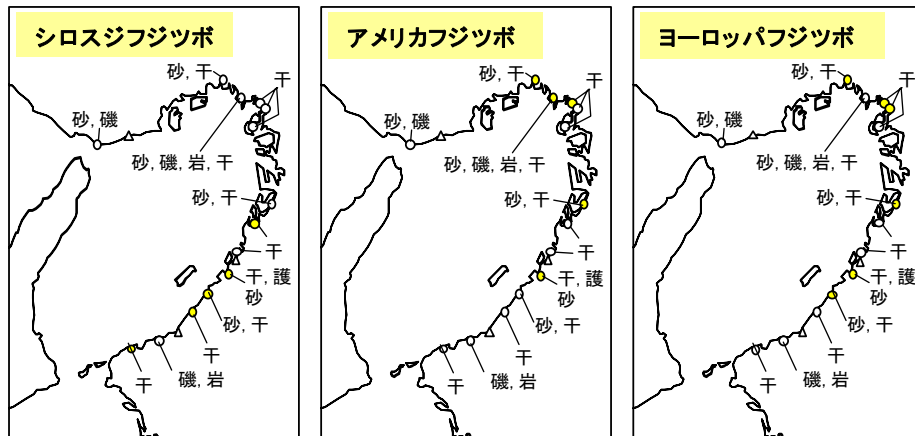
△：平成20年度のみ実施した調査点

【フジツボ類】

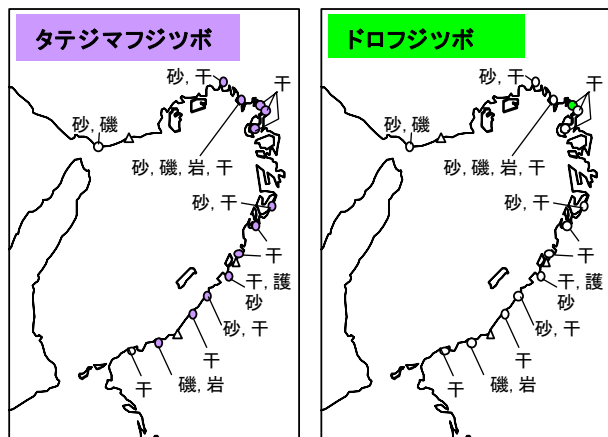
- 外海型のクロフジツボは湾中間域より奥では出現せしていませんでしたが、同型のアカフジツボは兵庫県側アジュール舞子のみで出現していました。



- 河口～内湾型のシロスジフジツボは大阪府側の湾中間域～湾口で出現し、同型のアメリカフジツボとヨーロッパフジツボは大阪府側の湾奥～湾中間域一帯で出現していました。



- 広域型のタテジマフジツボは大阪湾のほぼ全域で出現していました。河口型のドロフジツボの出現は湾奥の1地点のみで出現しました。

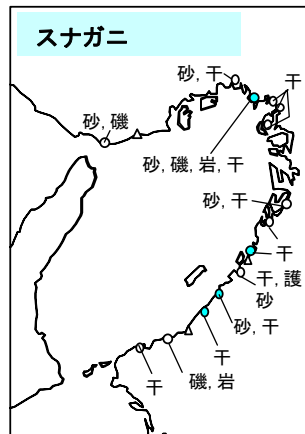


<ul style="list-style-type: none"> ・砂：砂浜 ・磯：磯 ・干：干潟 ・岩：岩礁 ・護：護岸 	<ul style="list-style-type: none"> ■ (Green) : 河口型 ■ (Yellow) : 河口～内湾型 ■ (Cyan) : 外海型 ■ (Purple) : 河口～内湾～外海型
--	--

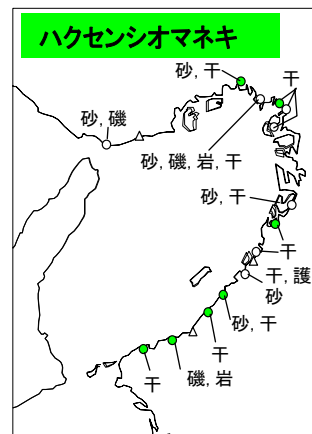
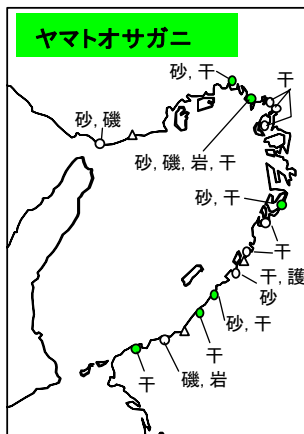
△：平成20年度のみ実施した調査点

【カニ類】

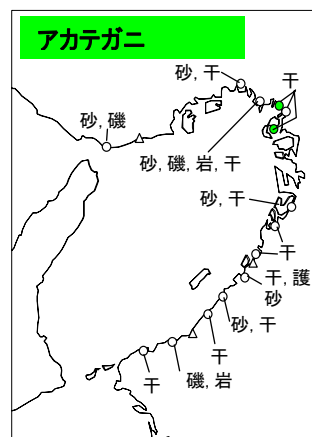
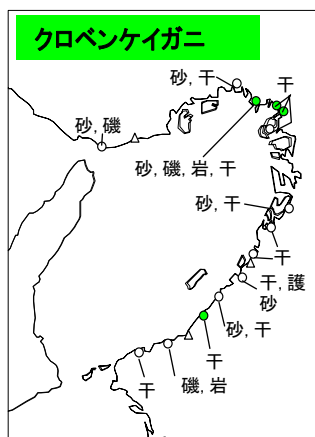
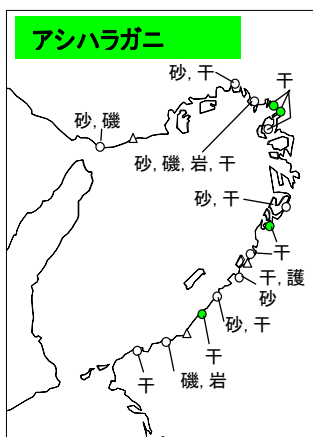
- 砂浜に生息するスナガニが甲子園浜と大阪府側湾中間域一帯で確認されました。



- 河口の泥干潟に生息するヤマトオサガニ、砂泥～砂礫の干潟に生息するハクセンシオマネキは淀川河口、男里川・樫井川河口などの干潟のある地点で出現していました。



- アシハラガニやクロベンケイガニ、アカテガニ等も河口地点の一部でのみ出現していました。



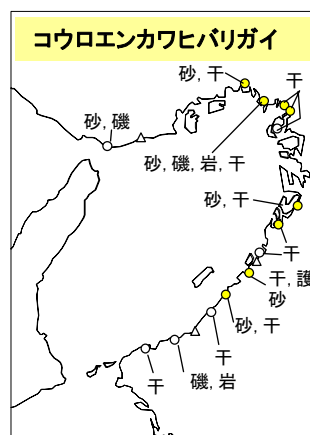
・砂：砂浜
 ・磯：磯
 ・干：干潟
 ・岩：岩礁
 ・護：護岸

：河口型
：内湾～外海型

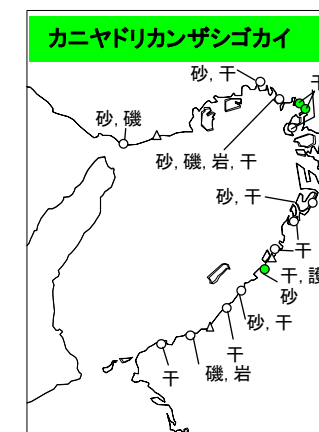
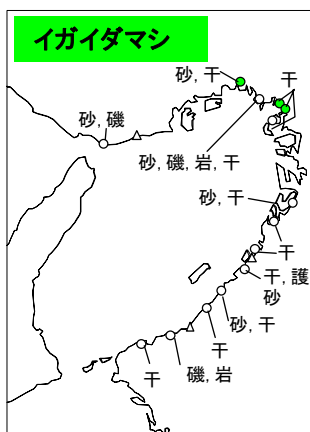
△：平成20年度のみ実施した調査点

【外来種】

- ミドリイガイの生個体が出現したのは湾奥の2地域（3地点）だけでした。ムラサキイガイは広域で出現し、コウロエンカワヒバリガイやチチュウカイミドリガニは湾中間域～湾奥で出現していました。



- 河口型のイガイダマシ、カニヤドリカンザシゴカイは湾奥あるいは湾中間域の限定された地点で出現していました。



- これら外来種の分布はムラサキイガイを除き、湾中間域～湾奥で多い傾向がみられました。

- ・ 砂：砂浜
- ・ 磯：磯
- ・ 干：干潟
- ・ 岩：岩礁
- ・ 護：護岸

- ：河口型
- ：河口～内湾型
- ：内湾～外海型
- △：平成20年度のみ実施した調査点

3-2. 平成 20 年度調査結果との比較

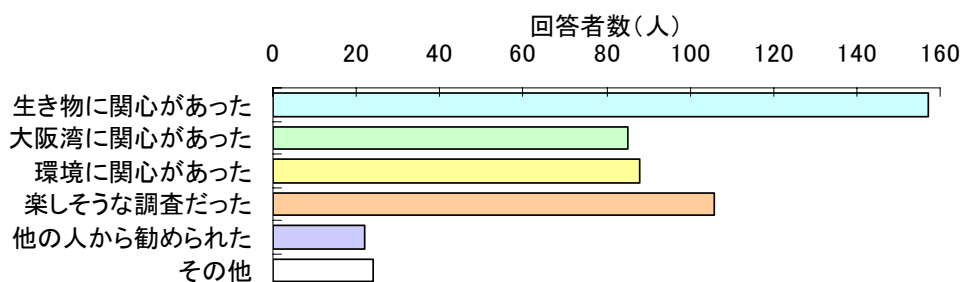
リスト掲載種について、平成 20 年度調査結果との比較は表 3 に示すとおりです。

平成 20 年度のリスト掲載種は 41 種でしたが、昨年度の調査状況を踏まえ、平成 21 年度は一部の種の入替えや追加を行い、43 種（多毛類、ヨコエビ類を含まない）を調査シートにリストに掲載しました。また、昨年度調査を実施した調査地域を、今年度変更した団体や、同一地域内で調査範囲の変更を行った団体がみられ、調査参加人数にも違いがあります。

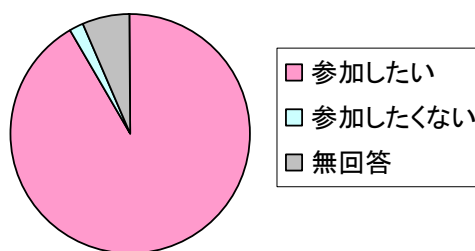
このため、2 カ年の出現状況を単純に比較することはできませんが、平成 20 年度と平成 21 年度にほぼ同一場所で調査されているとみられる調査地域についてみると、種数は近似しており、同様の種が確認されている場合が多くなっていました。

【アンケート結果】

- ・ 質問：大阪湾生き物一斉調査に参加された動機は何ですか？



- ・ 質問：来年度の調査にも参加したいですか？



大阪湾生き物一斉調査 結果発表会について

平成21年9月に、各地の調査協力団体が一同に会した結果発表会を開催し、人的な交流と情報共有を行っています。

【開催概要】

- 開催日時：平成21年9月27日（土）12時30分～17時00分
- 開催場所：大阪市立自然史博物館 講堂、イベントスペース
- 参加人数：78人
- プログラム：
 - ・ポスターセッション（12団体）
 - ・開会挨拶（神戸港湾空港技術調査事務所 所長）
 - ・調査概要の説明（神戸港湾空港技術調査事務所）
 - ・調査協力団体による口頭発表（4団体）
 - ・講師による講評（鍋島靖信氏、山西良平氏）



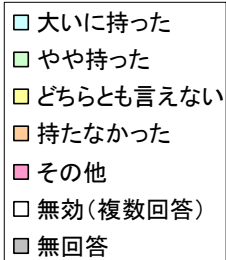
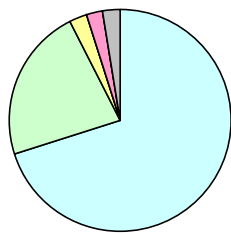
【調査に対する講評】

結果発表会では、調査にご協力いただいた講師（大阪湾海岸生物研究会）より以下のようなコメントをいただきました。

- ・ 市民参加という「一般性」と、データ蓄積という「専門性」があるが、これらは対立するものではなく、融合することにより、調査のテンションを高めることができる。大阪湾の各地域に博物館があるので、上手く連携していくと、この調査がより実りあるものになる。
- ・ どこまで詳細に調べるか、地点間で統一を図る必要がある。
- ・ 調査の参加者を増やししながら、活動を継続していきたい。
- ・ 確認した種の分布図を作成することにより、大阪湾生き物一斉調査の成果を共有することができる。
- ・ 淡路島も含めて一斉調査できるようになることを願っている。

【アンケート結果】

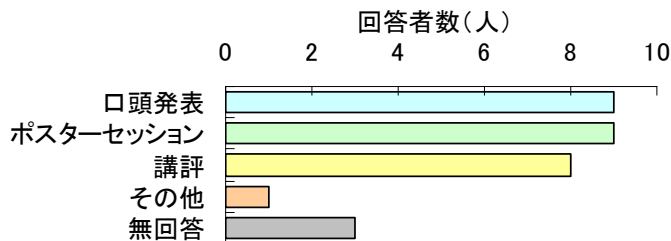
- ・ 質問：今回の結果発表会を通じて、大阪湾や生き物に関心を持たれましたか？



「その他」について

- ・ 大阪湾の生物相の豊かさに、いつもながら驚かされる。
- ・ 自然の砂浜を残して、森、里、海のつながりを大切にして、美しい自然、地球を守っていきたい。

- ・ 質問：今回の結果発表会で何がよかったですか？



「その他」について

- ・ 全体の調査結果概要
- ・ 他団体等との交流

【謝辞】

本調査では、山西良平氏および鍋島靖信氏をはじめとする大阪湾海岸生物研究会の方々に、調査の実施及び同定等にあって、ご尽力いただきました。ここに記して深く感謝の意を表します。

